

## カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2019年2月16日～2019年2月22日の推移】

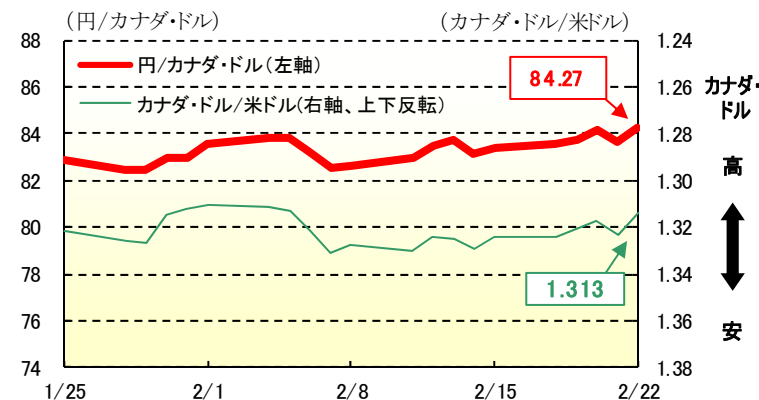
### 【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で上昇しました。カナダ5年国債利回りは横ばいになりました。

カナダの金利は米国金利に連れる形で、方向感無く推移しました。カナダ・ドルは、米中貿易摩擦の緩和による投資家のリスク選好姿勢の強まりや原油価格の上昇などを背景に対円で上昇しました。

また、小売売上高が発表になっており、前月に引き続き軟調な結果になったものの市場予想を上回りました。ガソリン価格の低下、自動車販売の不振が大きく影響しています。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2019年1月25日～2019年2月22日)



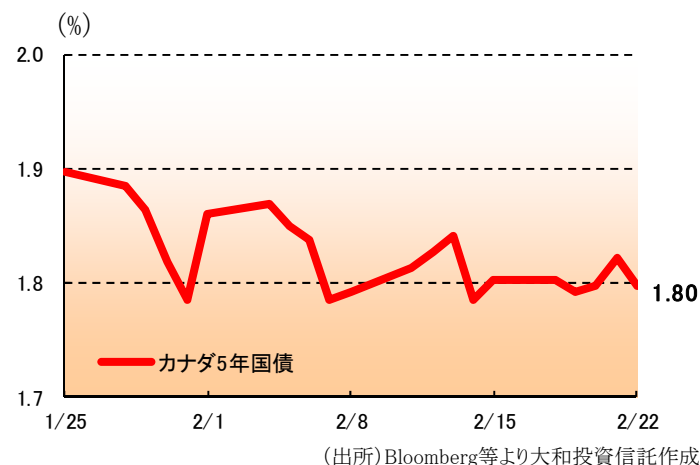
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。  
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 【2】今週の見通し

今週、カナダでは1月のCPI(消費者物価指数)や第4四半期GDP(国内総生産)の発表が予定されています。CPIに関しては、前月の航空運賃や旅費の上昇等、ホリデーシーズンによる一時的な要因での上昇の剥落により前月よりも軟調な結果になることが予想されています。また、GDPに関しても油田の一時的な生産の落ち込みを背景に第3四半期に比べて悪化することが見込まれています。

原油価格に関しては、サウジアラビアの減産を受け需給の改善が意識されていることから堅調に推移していましたが、トランプ大統領が原油価格の上昇に懸念を示し、OPEC(石油輸出国機構)を批判したことを受けて値を下げしており、上値が重い展開が予想されます。株価に関しては、米中貿易摩擦の緩和期待や米国の金融引き締め姿勢の後退などを背景に堅調に推移しており、カナダの通貨、金利を下支えすることが見込まれます。

【カナダ 金利推移】 (2019年1月25日～2019年2月22日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>